

第1回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会 会議録

■日時：平成28年8月31日（水）午後2：00～午後4：00

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

有賀隆委員、伊藤美香委員、岡田邦彦委員、岡田博子委員、小川泰雪委員、奥野信宏委員
種橋潤治委員、中井孝幸委員、野村愛一郎委員、福永智子委員、藤井信雄委員、葛西文雄委員

■議事：

- 1 市長あいさつ
- 2 委嘱状および任命状の交付
- 3 委員長の選出
- 4 中心市街地拠点施設整備に向けて
 - (1) これまでの検討経緯
 - (2) 今後のスケジュール
 - (3) その他
- 5 その他

■内容

- 1 市長あいさつ

田中俊行市長

- ・現在の市立図書館は開館から40年経過しており、新しい図書館の建設は市民の長年の夢である。また、市民アンケートを取るごとに「中心市街地の活性化」というテーマは毎回期待度が高く長年の懸案課題となっている。そこで、市役所東側の敷地を有効活用し、集客力のある図書館と中心市街地の活性化を解決する機能を組み合わせ、相乗効果の高い複合施設を整備したいと考えている。本日から1年、みなさまには様々な観点から活発なご意見をいただきたい。
- ・私事であるが、次期市長選には出馬しないと表明させていただいている。新しい拠点施設の基本計画が策定され、次の市長の時代に施設が完成できるよう、任期まで精一杯努力をさせていただく。みなさまのご指導、ご協力をお願いしたい。

- 2 委嘱状および任命状の交付

市長から各委員へ交付

- 3 委員長の選出

奥野信宏委員が委員長に選出される

<委員長就任のあいさつ>

- ・国の方で新たな国土形成計画が策定されたが、この計画ではスーパーメガリージョンの形成を見据えて中部圏は世界最強のものづくり拠点を目指すこととしている。また、数年前に四日市市ではアジア最強の産業都市を目指すという議論が交わされていた。ビジネスマンや研究者が喜んで滞在するまちを目指すことが大事だと思う。今度の拠点施設では、その布石になると期待している。みなさまからご意見をいただきながら、よりよい基本計画策定を目指したい。

- 4 中心市街地拠点施設整備に向けて

- (1) これまでの検討経緯

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

A 委員

- ・先ほどご説明があったように、昨年度の中心市街地活性化推進方策検討事業に関わらせていただいた。今回は、具体的なプランニングを進めていく大事なステップだと感じている。最初に3点申し上げたい。1点目は、昨年度の検討で我々に与えられた使命は、中心市街地の活性化に向けてありとあらゆる課題を検討する、つまりソフトとハードを含めて検討するということだった。公民連携のあり方、まち全体への処方箋など様々な視点で意見交換をした。その中で岡田委員にもソフトの重要性や市民を巻き込むことの重要性をご指摘いただいた。単に拠点施設の中に機能を盛り込めばよいというのではなく、まちの中に分散させながら連携させることをいかに構築できるか。場合によっては、施設の中はシンプルでよいのかもしれない。「既存施設との相乗効果を図ること」が重要である。私自身はそれが最優先課題だと思っており、今回がそのチャンスだと考えている。
- ・2点目は、最終的に一つの建物として収斂させていくわけで、60年、70年後の将来の人達に四日市の文化資産を継承してきたと思ってもらえるような建物を目指すべきである。そのためには「計画プロセス」が重要で、幅広い市民の意見をふまえて計画に反映するストーリー、サイドストーリーが必要だと思う。
- ・3点目は、建築学会でも議論になっていることで「これからは交流の時代」だとよく言われるが、「交流」をもう少し具体的な言葉に置き換えて考える必要があると思う。まず、まちとして「入口の空間」をどうつくるか、次に「流れの空間」として公共交通や道路空間をどうつくるか。四日市を訪れた人が近鉄四日市駅などから中心市街地への入口となる駅前空間、あるいは中央通りなど鉄道駅から拠点施設の間をどうつくり込んでいくかという課題に直結する。さらに「定着空間」、四日市の中心市街地はコンパクトで、諏訪栄などには分譲マンションも立地している。昨年度の検討でも「サードプレイス」という言い方をしたが、訪れた人も定住した人も立ち寄れる空間をつくるべきだろう。さらに「投資の空間」、もはや公共が直轄・直営するだけではなく、民間が参入して非営利ビジネスとしても成立しうるのかを検討する必要がある。

B 委員

- ・松本地区で2009年から毎週土曜日に民間の図書館「こどものまち図書館」を開館している。開館から8年ともなれば当時10歳だった子ども達が18歳になり、10歳の頃にこの図書館でよい時間を過ごしてくれたのかと反省するようになってきている。この会議に参加させていただきありがたいと思う一方、図書館について疑問な点も多々あるので失礼な発言をしてしまうかもしれないが、よろしくお願ひしたい。

委員長

- ・子どもを対象とした図書館ということか。

B 委員

- ・子どもに対し「本がある暮らし」を提供している。

委員長

- ・内閣府の懇談会に参加した時に、千葉県のNPOが運営する民間図書館の話聞いたことがある。そこでも子どもたちや乳児を連れのお母さん達が気軽に利用しており、今のお話をお聞きして思い出した。

C 委員

- ・今年で18回目を迎えたにつぼんど真ん中祭りの理事長を長年努めている。私のキャッチフレーズは「まちづくりはまつりから」で、「まちづくり」には「まつり」と「ちく」という言葉が絡み合っている。江戸時代より、まつりは普段違う仕事をしている人と人とを結びつけ、地区の防災訓練・火消しなどの共同作業に関わるなどまちづくりに寄与していた。につぼんど真ん中祭りでは、北海

道から九州まで参加者があり、全国の人達に踊りの場を提供している。文化多様性と交流の祭典というコンセプトで行ってきている。そういう観点からいけば海外から、台湾の人達も熱心に参加してくれている。

- ・物を計るのものさしが必要なように、心を計るのに志（こころざし）が必要だと思う。本日、昭和20年代末の商店街の資料をお配りしたが、戦災後すぐは狭いエリアの中に商業、モノを売る志を持った人達が集まってきた。岡田屋呉服店、つまりイオンの前身もこの地にあった。中心市街地では団塊の世代が育ち、物がどんどん売れて消費財の量産が進んだ時代に暮らしていた。今、この時代のような方法での中心市街地の活性化はありえないと思う。
- ・行政は市民の声を優先する傾向にあるが、市民の要望を聞くと老後の安心や養護施設の誘致など福祉の点が重要視されがちである。活性化を目指すなら交流というキーワードが大切である。
- ・図書館では利用者の声を聞くとベストセラーが並びがちだが、ブームが去るとほとんど借りられないような本が並んでしまう。そのあたりの対策は市の方でも考えられていると思う。また、例えば団塊の世代が持っているような蔵書を古本屋に持って行っても二束三文にしかならないが、中にはよい本があると思われ、本を判断できる目利きの人達がいて図書館の蔵書として受け取り、若い人達に還流できるような仕組みがあってもよい。図書館を文化的な資産として考える必要がある。
- ・最近では、図書館の役割は本を貸すだけではないと言われているが、例えばこれから売れる作家達の絵を飾るミニギャラリーがまちなかに点在していて、それらの情報を図書館に来ればわかるという状態になればよいと思う。また、高齢化社会において危惧されるのはアルツハイマーだが、アメリカでは勉強している人ほどアルツハイマーになりにくいという研究結果もある。図書館の役割でもある生涯学習を通じて健康寿命を延ばすという視点も考えられる。ガンジーの言葉に「永遠に生きる者のごとく学び、明日死ぬ者のごとく生きる」というものがある。

D 委員

- ・Can という団体が「子どもの本をまんやかに子どもと本をつなげる」活動をしてきている。今朝の中日新聞でも掲載していただいた。読書の楽しみを子ども達に伝え、子どもの健全な成長に寄与していきたいと思って活動している。市立図書館は私達の大事な活動拠点で、今後意見を申ししていきたい。
- ・まず、庁舎東広場に今回の拠点施設が計画されるということについて、報道ではじめて知った次第であり、もっと情報公開をしていただきたい。さらに施設に魂を入れるためには市民の声を聞く機会を設けていただきたい。特に小さい子どもを連れている母親は必ず車できて、自分と赤ちゃんの分のカードもつくって目一杯本を借りていく。駐車場からベビーカーを使ってのアクセスのしやすさなど、細かい点にも注意を払っていただきたい。

委員長

- ・市民の声を聞くというのは市の方でもすでに実施されているであろうが、施設に魂を入れるために是非ともそういった機会を設けていただきたいというご意見だと思う。

D 委員

- ・協働という言葉が書かれているが、私達は図書館の司書さん達と協働しながら活動しており、その関係を大切にしていきたいと思っている。

E 委員

- ・地域のことは地域全体で考えるということで、地域の諸団体が参加するまちづくり協議会が市内各地で組織されてその充実を図っている。市民協働条例、市民協働促進計画ができて市民協働がこれから進むと思う。こうした背景を踏まえての願いとして、四日市市民協働センターを拠点施設に入れていただきたい。それは自治会、NPO、ボランティア、まちづくり協議会など主だった活動を統括するセンター、市民が主役の拠点と考えている。

F 委員

- ・図書館が主テーマだと思うが、中心市街地活性化にどのようにつなげていくかが課題である。商工会議所でも中心市街地活性化に向けて努力してきているが、まだ道半ばである。
- ・大事なキーワードの一つが「協調性」だと思う。新しい図書館が単独でなくいかにして地域と一緒にまちをつくっていくかが大事である。中心市街地をとりまく人や車の流れも見ながら検討すべきである。
- ・2点目は「広域性」で、人口の多い名古屋方面など他地域からいかに人をよび込むかという視点も重要である。周辺市町と連携を図りながら進めるべきだと思う。
- ・3点目は「拡張性」である。将来にも残るような拠点づくりを目指すべきで、様々な環境変化にも耐えうる弾力的な機能をどのように入れていくかが重要である。

G 委員

- ・地方都市の図書館についてどのような使われ方をしているか、どこから利用者が来ているかという「利用圏域」の視点から研究をはじめた。地方都市では、利用者が使う図書館を選択している時代で3、4割は複数の図書館を利用しているという調査結果を持っている。ほぼみなさんマイカーで動かれるからだと思う。また、長野県塩尻市と京都府福知山市の図書館でアンケート調査を行ったことがあるが、いずれも複合拠点施設だが、利用者の85%が図書館を目的として来たという結果を得た。その結果から、複合施設をつくる場合に図書館を充実させる必要があると思う。
- ・図書館でも最近、キーワードとして「にぎわい」があげられるようになってきているが、もっと大事なのは蔵書の構成だと思う。図書館は、従来から静かな空間づくりが求められるが、その一方で交流も生み出すと音は必ず出てしまう。静かな空間と交流していい空間を分ける、つまり「音のゾーニング」をする必要があると思う。
- ・図書館は、大きい図書館と小さな図書館とあり、それぞれ役割があっていいと思う。文化を支える拠点的な図書館であるならば、今後はまつりや文化といったまちを記録していくことが重要で、それは本でも映像でもいいと思うが、それら記録の蓄積といつでも記録を見えるようにすることが重要である。全部を図書館が引き受ける必要はなく、地域の方々と分担しながらやっていければと思う。
- ・MLAK 連携といって、美術館・博物館、図書館、公文書館、公民館などが同居し、利用者がつながる施設になればいいと思う。それで有名なのが鳥取県立図書館で、図書館に行けばスタッフの人がビジネス支援をはじめさまざまな支援先に上手につないでくれる。
- ・滞在型という視点について、実際に滞在時間が長いのは若者と男性である。女性は本を借りるが滞在時間は短い。逆に男性はあまり借りないが滞在時間は長い傾向がある。滞在型といった場合に、単に多様という言葉で済まさず、誰を対象としてどんな利用をさせたいかなど戦略を練るべきだと思う。

委員長

- ・検討に加わった愛知県安城市の新図書館は、JR安城駅の近くで、市役所の近くでもあるが市民病院が郊外に移転し、その地に現在建設中である。
- ・図書館というと昔は司法試験を勉強する若者が来るので邪魔してはいけないという風潮だったが、今の若者は複数で来ていろんなプロジェクトに取り組み議論したりして利用されている。確かラーニング・コモンズという言い方をしたと思う。

G 委員

- ・ラーニング・コモンズの利用者の7割は個人利用で、今の若い人達は話し声もするざわざわとしたところで勉強する傾向にあると思う。もちろん、グループで利用する人達もいる。

H 委員

- ・中心市街地では商店街振興組合や発展会が複数混在しているが、それを取りまとめているのが諏訪栄町地区まちづくり協議会である。私は大学から商社マン時代には一度四日市を出て、戻ってきてから 20 年経った。戻ってきた当初は商社マン時代の感覚を持っていたが、今では商店街のオヤジのような感覚になってきていると思う。
- ・かつては今の市役所の裏通りを通して市役所横の市民会館に行く人の流れができていた。今回の新しい拠点施設でも、駅から商店街を通して行くというルートが考えられる。中心市街地全体にとって人の流れがどのように影響を受けるか、お店が連なる商店街、市役所と拠点施設周辺など全体のゾーニングの中で新しい施設をどうしていくかを考える必要があると思う。

I 委員

- ・昨年度から大学図書館の館長を務めており、様々な課題に対応している毎日である。三重県の子ども読書活動推進会議に数年関わっており、そこから四日市市の図書館協議会委員にお呼びいただき、この会議にもお声がかかったのだと思う。子ども読書推進会議の話から幾つかポイント的に話をさせていただこうと思う。基本となるのは図書館法と子どもの読書活動の推進に関する法律だと思うが、法律では子どもは 0 歳から 18 歳までを対象としており、その読書環境を整えることが国内の図書館で求められている。先ほど、複合施設利用者の 85%が図書館に来るというお話があったが、私も図書館機能が重要でいかに若い読者を育てられるかが課題だと考えている。
- ・かつて大阪府中之島図書館は勉強する人と本を借りる人の入口が分けられており、勉強する人が申し訳なさそうに図書館を利用していた。今や若い人達がおしゃべりをしながら、お弁当やコンビニで買ったものを食べて利用する時代で、かつての中之島図書館のようなことはできないと思う。日本の高校生の 8 割が学校図書館も公共図書館も使わない時代である。岐阜市のメディアコスモスのように人々が入りやすい図書館だといえると思う。
- ・家庭でどのように子どもに本に親しんでもらうかという点について、図書館や本屋に子どもを連れていくことがとても有効だという調査結果がある。新しい拠点施設が市民のサードプレイスとして行き先の選択肢に加えられ、図書館に来てくれるようになるとうい。
- ・子どもの読書活動の推進という点では、平日は子ども達は学校にいるので公共図書館は利用できないため学校図書館との連携が必要で、乳幼児向けには子育てサークルとの連携など、図書館のサービスを外に出す活動も必要だと思う。

委員長

- ・ラーニング・コモンズを大学で導入するようになったのは数年前のことだと思うが、導入に際して大学内で意見を交わしていた時に、飲食は禁止にすべきという意見と、ある程度は許容していいのではないかという意見が出た。結局後者の意見が尊重されたが、実際によく利用する女子学生などは、複数でお菓子を食べておしゃべりしながら利用している。
- ・私からも 2 点ほど申し上げたい。1 点目は、何人かの方からご意見をいただいたが「交流」「連携」というキーワードについて、今までの国土形成計画でも何度かこのキーワードが使われてきた。最近では「対流」というキーワードが出てきている。大学や図書館が熱源となり、対流が新しい風を生み出すことにつながると思う。
- ・2 点目は「多様な主体の参加」で、過去の国土形成計画では「新たな公」を国の基本戦略と位置づけ、政権が代わって「新たな公共」となり、さらに政権が代わって「協働社会」となっている。エリアマネジメントのような活動に代表されるように、今や市民団体や企業が公共を担う時代になりつつある。その点も重要視したい。

J 委員

- ・昨年度は有賀委員に委員長をお願いし、中心市街地活性化の視点で幅広い観点から検討していただいた。今回、図書館を中心とした拠点施設の整備について本日が初めての会議である。複合施設ということで中心市街地活性化エリアは港の方まで入っており、この間の交流を生み出していききたい

と考えている。2027 年度のリニア中央新幹線の開通に向け、四日市市の魅力を高めないと東海地方の中で埋没してしまう懸念がある。

- ・先ほど、情報開示の意見もあったが、かつて、総合計画を策定した際には討議型のシンポジウムをさせていただいた。新しい拠点施設では、小さなお子さんからキャリアを積んだ高齢者まで、いろんな方々の利用が考えられる。また、市役所の横に新施設が来るということは、365 日いろんな人の目が市役所に注がれることにもなり、職員が今以上に緊張感を持って仕事に取り組む必要があり、質の向上からもメリットも多い。
- ・岡田委員からご提供いただいた資料にもあるように、四日市の元々の DNA は「名古屋何するものぞ」という気概を持ってまちをつくり、いろんな変化の中で残すものは残してきた。最大公約数といういい方がよいのかは別として、様々な方々の意見を聞きに行くことも検討したい。委員のみならずここに来られたマスコミの方々も既に当事者になっているわけで、この時間・空間を共有して検討を深めていきたい。一年間よろしくお願ひしたい。

K 委員

- ・今の図書館は昭和 48 年にでき、中心部から少し離れているが、当時高校生だった私はしっかりと通った。文化の香りがする施設で当時としては魅力があった。また、勉強しに一人で出かけたものの周りには仲間もいて、その仲間と楽しく過ごした。それとともに、当時新しく図書館ができたことはインパクトが大きく、仲間と毎日図書館の話をしていた。今度新しく図書館ができることとなるが、平成 16、17 年度から議論を重ねてきて、10 年かけてようやく実現に向けて動き出した。今後の会議の中ではこれまでの 10 年間の議論や、市民の方からいただいた意見も示していきたい。公立図書館としての役割を議論していただければと思う。教育委員会として、未来の四日市、さらには日本を支える若者を育成する使命を意識しており、そのあたりでもご意見をいただきたい。

委員長

- ・残り時間が少なくなってきたが、追加してご意見やご質問があればお伺ひしたい。

B 委員

- ・情報開示については、今後具体的にどのようにされていくのか。

J 委員

- ・中間的な案が出てきた段階で市民の方々に意見を聞く機会ができないかを考えている。総合計画の策定時には、市民によびかけて隣の総合会館を使って総合計画の素案について意見を聞く機会を設けた。今回についても 2、3 回くらい同様のことをやるべきだと考えている。また、これまでも今回のような会議では終了後の早い段階で会議録をホームページに掲載してきており、情報開示は確実にさせていただく。
- ・事務局は政策推進部が担当するが、施設整備に関係する教育委員会、商工農水部、市民文化部、都市整備部も今日参加しており、各部の中でいろんな方に意見を聞きに行くことも考えられるし、逆にこういう団体から聞きに来てほしいという要請があれば我々から出向いていくので、積極的にアプローチもしていただければと思う。

B 委員

- ・この会議に参加していない現場の人や利用者など、そういう人達にこそ意見を聞くべきと考える。

J 委員

- ・現場の意見を聞く場は必要だと思うが、今回の目的は四日市全体の拠点施設として中心市街地活性化に寄与し、持続性のある施設づくりが求められ、そのような知見のある方々に委員になっていただいており、図書館に知見のある方々も委員に加わっていただいている。その一方で、いろんな考えを補うためにも意見聴取はさせていただきたい。

B 委員

- ・例えば私は民間の図書館で活動をしていて、そのいいところを今回の新しい施設に求めたいと思うが、それらの意見はどうやって反映されるのか。

J 委員

- ・今回が会議の1回目であり、検討を始めたばかりだが、私どもも若干ながら先進事例を視察しており、魅力的な空間を工夫してつくられている事例も調べている。今後もこの会議の場で、あるいは思いつかれた時にご連絡を頂いてもいいと思う。

委員長

- ・今後もこの会議の場で、遠慮なくご発言をいただければよいと思う。

(2) 今後のスケジュール

資料に基づき事務局が説明。

(意見なし)

(3) その他

次回の日程調整は、事務局より後日行う。